

トリークトポロジー

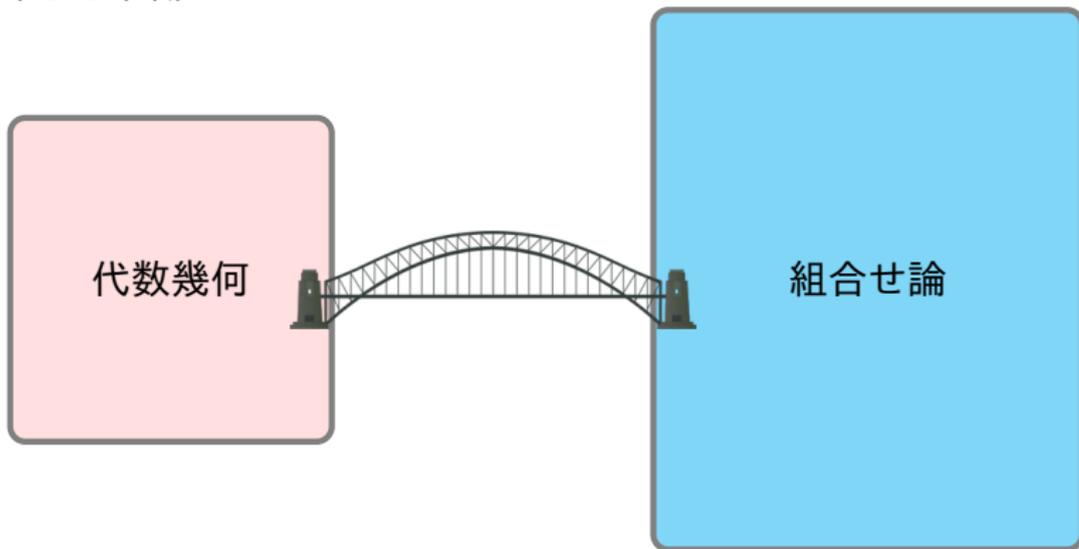
栞田 幹也

大阪市立大学

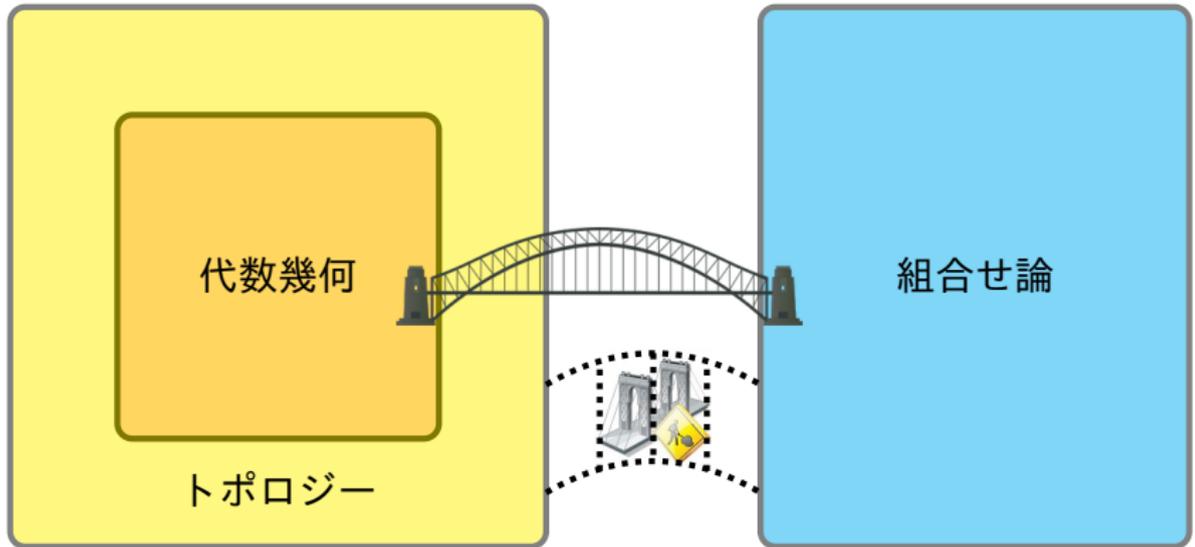
日本数学会（於，筑波大学） 2016年3月17日

トーリック幾何 : Demazure, Mumford, 三宅-小田,... により基礎理論が構築 (1970 年頃)

トーリック幾何 : Demazure, Mumford, 三宅-小田,... により基礎理論が構築
(1970 年頃)



トーリック幾何とトーリックトポロジー



トーリクトポロジー : Davis-Januszkiewicz の論文 (1991)

1990 年代後半から少しずつ研究が始まる.

トーリクトポロジー : Davis-Januszkiewicz の論文 (1991)

1990 年代後半から少しずつ研究が始まる.

V. M. Buchstaber and T. E. Panov の 2 つの本

[1] 「Torus actions and their applications in topology and combinatorics」 Univ. Lect. 24, AMS. 2002 (約 140 頁)

トーリックトポロジー : Davis-Januszkiewicz の論文 (1991)

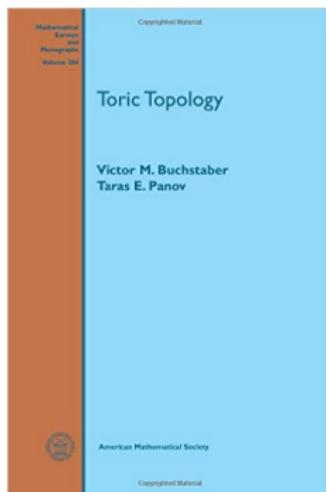
1990 年代後半から少しずつ研究が始まる.

V. M. Buchstaber and T. E. Panov の 2 つの本

[1] 「Torus actions and their applications in topology and combinatorics」 Univ. Lect. 24, AMS, 2002 (約 140 頁)

[2] 「Toric Topology」

Math. Surveys and Monographs, AMS, 2015 (約 520 頁)



トーリック幾何との出会い (1994 年頃)

同変 Serre 問題 (H. Bass, 1985 年頃) G 簡約複素代数群
 G 表現空間 B 上の代数的 G ベクトル束 $E \rightarrow B$ は自明か.

トーリック幾何との出会い (1994 年頃)

同変 Serre 問題 (H. Bass, 1985 年頃) G 簡約複素代数群
 G 表現空間 B 上の代数的 G ベクトル束 $E \rightarrow B$ は自明か.

$G = \{1\}$ のとき **Serre 問題** 「多項式環上の有限生成射影加群は自由加群か」.
肯定的に解決 (**Quillen, Suslin, 1976 年**)

トリーク幾何との出会い (1994 年頃)

同変 Serre 問題 (H. Bass, 1985 年頃) G 簡約複素代数群
 G 表現空間 B 上の代数的 G ベクトル束 $E \rightarrow B$ は自明か.

$G = \{1\}$ のとき **Serre 問題** 「多項式環上の有限生成射影加群は自由加群か」.
肯定的に解決 (**Quillen, Suslin, 1976 年**)

【同変 **Serre 問題**の動機】 $E \rightarrow B$ が非自明なら, $E(= \mathbb{C}^n)$ 上の G 作用は表現ではない (だろう). つまり, $\text{Aut}(\mathbb{C}^n)$ の部分群 G で $\text{GL}_n(\mathbb{C}) \subset \text{Aut}(\mathbb{C}^n)$ に含まれないものが存在する (だろう).

トーリック幾何との出会い (1994 年頃)

同変 Serre 問題 (H. Bass, 1985 年頃) G 簡約複素代数群
 G 表現空間 B 上の代数的 G ベクトル束 $E \rightarrow B$ は自明か.

$G = \{1\}$ のとき **Serre 問題** 「多項式環上の有限生成射影加群は自由加群か」.
肯定的に解決 (**Quillen, Suslin, 1976 年**)

【同変 **Serre 問題**の動機】 $E \rightarrow B$ が非自明なら, $E(= \mathbb{C}^n)$ 上の G 作用は表現ではない (だろう). つまり, $\text{Aut}(\mathbb{C}^n)$ の部分群 G で $\text{GL}_n(\mathbb{C}) \subset \text{Aut}(\mathbb{C}^n)$ に含まれないものが存在する (だろう).

- 反例あり (**Kraft-Schwarz, Knop, M-Petrie,...**)

トーリック幾何との出会い (1994 年頃)

同変 Serre 問題 (H. Bass, 1985 年頃) G 簡約複素代数群
 G 表現空間 B 上の代数的 G ベクトル束 $E \rightarrow B$ は自明か.

$G = \{1\}$ のとき **Serre 問題** 「多項式環上の有限生成射影加群は自由加群か」.
肯定的に解決 (**Quillen, Suslin, 1976 年**)

【同変 **Serre 問題**の動機】 $E \rightarrow B$ が非自明なら, $E (= \mathbb{C}^n)$ 上の G 作用は表現ではない (だろう). つまり, $\text{Aut}(\mathbb{C}^n)$ の部分群 G で $\text{GL}_n(\mathbb{C}) \subset \text{Aut}(\mathbb{C}^n)$ に含まれないものが存在する (だろう).

- 反例あり (**Kraft-Schwarz, Knop, M-Petrie,...**)
- G が可換のとき肯定的 (**M-Moser-Petrie**)

トーリック幾何との出会い (1994 年頃)

同変 Serre 問題 (H. Bass, 1985 年頃) G 簡約複素代数群
 G 表現空間 B 上の代数的 G ベクトル束 $E \rightarrow B$ は自明か.

$G = \{1\}$ のとき **Serre 問題** 「多項式環上の有限生成射影加群は自由加群か」.
肯定的に解決 (**Quillen, Suslin, 1976 年**)

【同変 **Serre 問題**の動機】 $E \rightarrow B$ が非自明なら, $E (= \mathbb{C}^n)$ 上の G 作用は表現ではない (だろう). つまり, $\text{Aut}(\mathbb{C}^n)$ の部分群 G で $\text{GL}_n(\mathbb{C}) \subset \text{Aut}(\mathbb{C}^n)$ に含まれないものが存在する (だろう).

- 反例あり (**Kraft-Schwarz, Knop, M-Petrie,...**)
- G が可換のとき肯定的 (**M-Moser-Petrie**)

G 可換 $\implies B$ は 1 次元表現の直和 $\implies B//G$ トーリック

トーリック幾何との出会い (1994 年頃)

同変 Serre 問題 (H. Bass, 1985 年頃) G 簡約複素代数群
 G 表現空間 B 上の代数的 G ベクトル束 $E \rightarrow B$ は自明か.

$G = \{1\}$ のとき **Serre 問題** 「多項式環上の有限生成射影加群は自由加群か」.
肯定的に解決 (**Quillen, Suslin, 1976 年**)

【同変 **Serre 問題**の動機】 $E \rightarrow B$ が非自明なら, $E (= \mathbb{C}^n)$ 上の G 作用は表現ではない (だろう). つまり, $\text{Aut}(\mathbb{C}^n)$ の部分群 G で $\text{GL}_n(\mathbb{C}) \subset \text{Aut}(\mathbb{C}^n)$ に含まれないものが存在する (だろう).

- 反例あり (**Kraft-Schwarz, Knop, M-Petrie,...**)
- G が可換のとき肯定的 (**M-Moser-Petrie**)

G 可換 $\implies B$ は 1 次元表現の直和 $\implies B//G$ トーリック

$B//G$ 上のベクトル束が自明 $\xrightarrow{\text{MMP}}$ B 上の G ベクトル束は自明

トーリック幾何との出会い (1994 年頃)

同変 Serre 問題 (H. Bass, 1985 年頃) G 簡約複素代数群
 G 表現空間 B 上の代数的 G ベクトル束 $E \rightarrow B$ は自明か.

$G = \{1\}$ のとき **Serre 問題** 「多項式環上の有限生成射影加群は自由加群か」.
肯定的に解決 (**Quillen, Suslin, 1976 年**)

【同変 **Serre 問題**の動機】 $E \rightarrow B$ が非自明なら, $E(= \mathbb{C}^n)$ 上の G 作用は表現ではない (だろう). つまり, $\text{Aut}(\mathbb{C}^n)$ の部分群 G で $\text{GL}_n(\mathbb{C}) \subset \text{Aut}(\mathbb{C}^n)$ に含まれないものが存在する (だろう).

- 反例あり (**Kraft-Schwarz, Knop, M-Petrie,...**)
- G が可換のとき肯定的 (**M-Moser-Petrie**)

G 可換 $\implies B$ は 1 次元表現の直和 $\implies B//G$ トーリック

$B//G$ 上のベクトル束が自明 $\xrightarrow{\text{MMP}}$ B 上の G ベクトル束は自明
(左は **Gubelaze** によって示されていた)

トーリック幾何

トーリック多様体

定義 (トーリック多様体)

複素 n 次元正規代数多様体 X が, 稠密な軌道をもつ群作用 $(\mathbb{C}^*)^n \times X \rightarrow X$ をもつとき, トーリック多様体という.

群作用は, 積演算 $(\mathbb{C}^*)^n \times (\mathbb{C}^*)^n \rightarrow (\mathbb{C}^*)^n$ を拡張したもの.

トーリック多様体

定義 (トーリック多様体)

複素 n 次元正規代数多様体 X が, 稠密な軌道をもつ群作用 $(\mathbb{C}^*)^n \times X \rightarrow X$ をもつとき, トーリック多様体という.

群作用は, 積演算 $(\mathbb{C}^*)^n \times (\mathbb{C}^*)^n \rightarrow (\mathbb{C}^*)^n$ を拡張したもの.

- 1次元トーリック多様体は次の3つのみ.

$$\mathbb{C}^*, \quad \mathbb{C} = \mathbb{C}^* \cup \{0\}, \quad \mathbb{C}P^1 = \mathbb{C}^* \cup \{0\} \cup \{\infty\}$$

トーリック多様体

定義 (トーリック多様体)

複素 n 次元正規代数多様体 X が, 稠密な軌道をもつ群作用 $(\mathbb{C}^*)^n \times X \rightarrow X$ をもつとき, トーリック多様体という.

群作用は, 積演算 $(\mathbb{C}^*)^n \times (\mathbb{C}^*)^n \rightarrow (\mathbb{C}^*)^n$ を拡張したもの.

- 1次元トーリック多様体は次の3つのみ.

$$\mathbb{C}^*, \quad \mathbb{C} = \mathbb{C}^* \cup \{0\}, \quad \mathbb{C}P^1 = \mathbb{C}^* \cup \{0\} \cup \{\infty\}$$

- 2次元トーリック多様体は,

$$1 \text{次元の直積}, \quad \mathbb{C}P^2, \quad \mathbb{C}P^2 \# q \overline{\mathbb{C}P^2} \quad (q: \text{自然数})$$

など無限に沢山ある. 特異点をもつものもある.

Example (コンパクト非特異トーリック多様体)

例 1. 複素射影空間 $\mathbb{C}P^n$.

$(g_1, \dots, g_n) \in (\mathbb{C}^*)^n$ の作用は

$$[z_1, \dots, z_n, z_{n+1}] \mapsto [g_1 z_1, \dots, g_n z_n, z_{n+1}]$$

稠密な $(\mathbb{C}^*)^n$ 軌道はすべての座標が 0 でない点の集合.

Example (コンパクト非特異トーリック多様体)

例 1. 複素射影空間 $\mathbb{C}P^n$.

$(g_1, \dots, g_n) \in (\mathbb{C}^*)^n$ の作用は

$$[z_1, \dots, z_n, z_{n+1}] \mapsto [g_1 z_1, \dots, g_n z_n, z_{n+1}]$$

稠密な $(\mathbb{C}^*)^n$ 軌道はすべての座標が 0 でない点の集合.

例 2. **Bott** 多様体 B_n .

$\mathbb{C}P^1$ 束の系列 (Bott タワー)

$$B_n \xrightarrow{\mathbb{C}P^1} B_{n-1} \xrightarrow{\mathbb{C}P^1} \dots \xrightarrow{\mathbb{C}P^1} B_2 \xrightarrow{\mathbb{C}P^1} B_1 \xrightarrow{\mathbb{C}P^1} B_0 = \{1 \text{ 点} \}$$

$B_k = P(L_k \oplus \mathbb{C})$ 射影化, $L_k \rightarrow B_{k-1}$ は (複素) 直線束.

Example (コンパクト非特異トーリック多様体)

例 1. 複素射影空間 $\mathbb{C}P^n$.

$(g_1, \dots, g_n) \in (\mathbb{C}^*)^n$ の作用は

$$[z_1, \dots, z_n, z_{n+1}] \mapsto [g_1 z_1, \dots, g_n z_n, z_{n+1}]$$

稠密な $(\mathbb{C}^*)^n$ 軌道はすべての座標が 0 でない点の集合.

例 2. **Bott** 多様体 B_n .

$\mathbb{C}P^1$ 束の系列 (Bott タワー)

$$B_n \xrightarrow{\mathbb{C}P^1} B_{n-1} \xrightarrow{\mathbb{C}P^1} \dots \xrightarrow{\mathbb{C}P^1} B_2 \xrightarrow{\mathbb{C}P^1} B_1 \xrightarrow{\mathbb{C}P^1} B_0 = \{1 \text{ 点} \}$$

$B_k = P(L_k \oplus \mathbb{C})$ 射影化, $L_k \rightarrow B_{k-1}$ は (複素) 直線束.

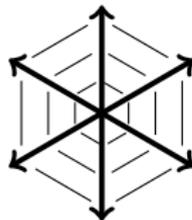
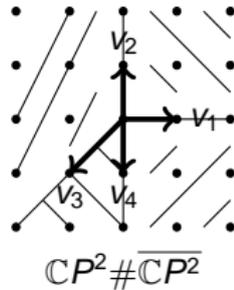
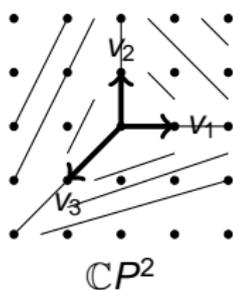
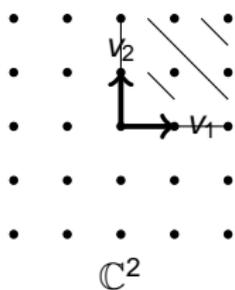
• $B_1 = \mathbb{C}P^1$, B_2 は Hirzebruch 曲面 F_a ($a \in \mathbb{Z}$).

トーリック幾何の基本定理

{ 複素 n 次元トーリック多様体 } $\xleftrightarrow{1:1}$ { \mathbb{R}^n 内の扇 }

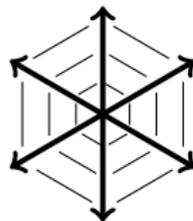
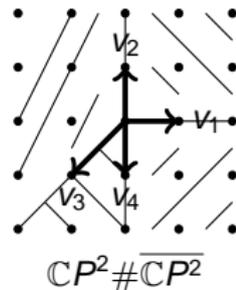
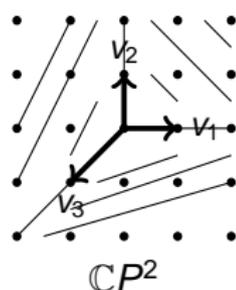
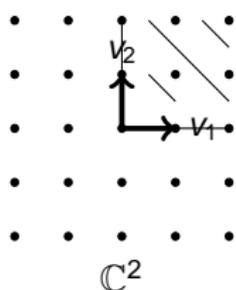
トリーク幾何の基本定理

{ 複素 n 次元トリーク多様体 } $\xleftrightarrow{1:1}$ { \mathbb{R}^n 内の扇 }



トーリック幾何の基本定理

{ 複素 n 次元トーリック多様体 } $\xleftrightarrow{1:1}$ { \mathbb{R}^n 内の扇 }



- ルート系 A_n の Weyl Chamber に対応するトーリック多様体 (Permutohedral variety) には対称群 \mathfrak{S}_{n+1} が作用し、 \mathfrak{S}_{n+1} のコホモロジー表現が得られる (Procesi, Stanley, Stembridge, ...)

トーリック多様体 \implies 扇

以後、コンパクト (=完備) 非特異の範疇で考える.

トーリック多様体 \implies 扇

以後、コンパクト (=完備) 非特異の範疇で考える。

Example

$$(\mathbb{C}^*)^2 \curvearrowright \mathbb{C}P^2 = X \quad [z_1, z_2, z_3] \rightarrow [g_1 z_1, g_2 z_2, z_3]$$

$X_i := \{z_i = 0\}$ 不変因子, $X \setminus \bigcup_{i=1}^3 X_i = (\mathbb{C}^*)^2$ 稠密軌道

トーリック多様体 \implies 扇

以後、コンパクト (=完備) 非特異の範疇で考える。

Example

$$(\mathbb{C}^*)^2 \curvearrowright \mathbb{C}P^2 = X \quad [z_1, z_2, z_3] \rightarrow [g_1 z_1, g_2 z_2, z_3]$$

$$X_i := \{z_i = 0\} \text{ 不変因子, } X \setminus \bigcup_{i=1}^3 X_i = (\mathbb{C}^*)^2 \text{ 稠密軌道}$$

一般に、 X の不変因子 (余次元 1) を X_1, \dots, X_m とすると

$$X \setminus \bigcup_{i=1}^m X_i = (\mathbb{C}^*)^n \text{ 稠密軌道}$$

- X を特徴付けるものは、 X_i たち (およびその近傍) .

不変因子 X_1, \dots, X_m から2つのデータを抽出する.

不変因子 X_1, \dots, X_m から2つのデータを抽出する.

- $K_X := \{I \subset \{1, \dots, m\} \mid \bigcap_{i \in I} X_i \neq \emptyset\}$ (抽象) 単体複体

不変因子 X_1, \dots, X_m から2つのデータを抽出する.

- $K_X := \{I \subset \{1, \dots, m\} \mid \bigcap_{i \in I} X_i \neq \emptyset\}$ (抽象) 単体複体
- $v_i \in \text{Hom}(\mathbb{C}^*, (\mathbb{C}^*)^n) = \mathbb{Z}^n$ は, $v_i(\mathbb{C}^*)$ が X_i を固定する ($+\alpha$).

不変因子 X_1, \dots, X_m から2つのデータを抽出する.

- $K_X := \{I \subset \{1, \dots, m\} \mid \bigcap_{i \in I} X_i \neq \emptyset\}$ (抽象) 単体複体
- $v_i \in \text{Hom}(\mathbb{C}^*, (\mathbb{C}^*)^n) = \mathbb{Z}^n$ は, $v_i(\mathbb{C}^*)$ が X_i を固定する $(+\alpha)$.

$I \in K_X$ のとき, $\{v_i \mid i \in I\}$ で錐を作る $\rightsquigarrow X$ の扇 Δ_X

扇 Δ_X は, $\text{Hom}(\mathbb{C}^*, (\mathbb{C}^*)^n) \otimes \mathbb{R} = \mathbb{R}^n$ 内の n 次元以下の錐の集まり.

不変因子 X_1, \dots, X_m から2つのデータを抽出する.

- $K_X := \{I \subset \{1, \dots, m\} \mid \bigcap_{i \in I} X_i \neq \emptyset\}$ (抽象) 単体複体
- $v_i \in \text{Hom}(\mathbb{C}^*, (\mathbb{C}^*)^n) = \mathbb{Z}^n$ は, $v_i(\mathbb{C}^*)$ が X_i を固定する $(+\alpha)$.

$I \in K_X$ のとき, $\{v_i \mid i \in I\}$ で錐を作る $\rightsquigarrow X$ の扇 Δ_X

扇 Δ_X は, $\text{Hom}(\mathbb{C}^*, (\mathbb{C}^*)^n) \otimes \mathbb{R} = \mathbb{R}^n$ 内の n 次元以下の錐の集まり.

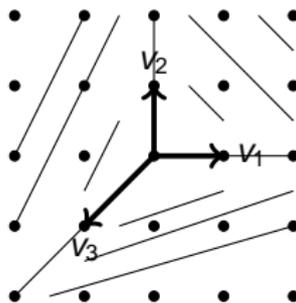
Δ_X は2つのデータ $(K, \{v_i\}_{i=1}^m)$ を可視化したもの.

Example

$$(\mathbb{C}^*)^2 \curvearrowright \mathbb{C}P^2 = X \quad [z_1, z_2, z_3] \rightarrow [g_1 z_1, g_2 z_2, z_3]$$

$X_i := \{z_i = 0\}$ ($i = 1, 2, 3$) 不変因子

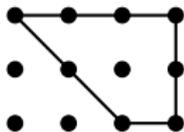
- $K_X = \{\{1\}, \{2\}, \{3\}, \{1, 2\}, \{2, 3\}, \{3, 1\}\}$
- $v_1(g) = (g, 1)$, $v_2(g) = (1, g)$, $v_3(g) = (g^{-1}, g^{-1})$ ($g \in \mathbb{C}^*$)
 $v_i \in \text{Hom}(\mathbb{C}^*, (\mathbb{C}^*)^2) = \mathbb{Z}^2$.



Pick の公式 (トリーク幾何の応用)

Pick の公式 (G. Pick, 1899)

P を格子多角形, P の内部にある格子点の数を $I(P)$, P の辺上にある格子点の数を $B(P)$ とすると, P の面積 $= I(P) + \frac{1}{2}B(P) - 1$



$$I(P) = 1$$

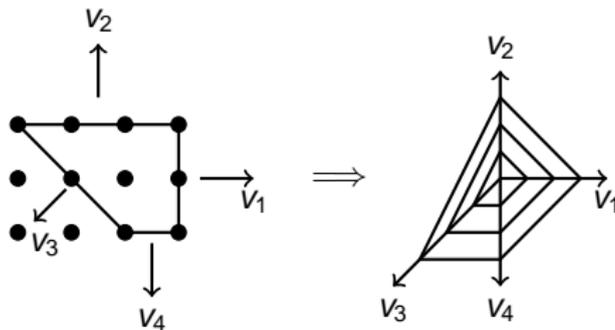
$$B(P) = 8$$

$$P \text{ の面積} = 4$$

Pick の公式 (トーリック幾何の応用)

Pick の公式 (G. Pick, 1899)

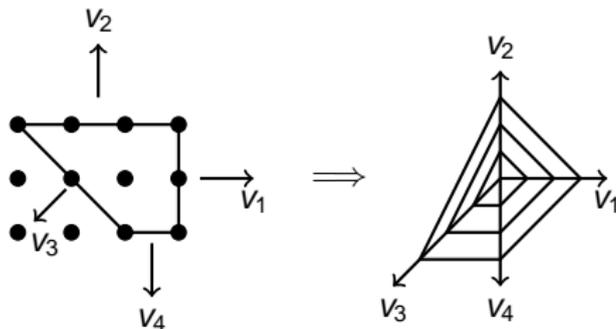
P を格子多角形, P の内部にある格子点の数を $I(P)$, P の辺上にある格子点の数を $B(P)$ とすると, P の面積 $= I(P) + \frac{1}{2}B(P) - 1$



Pick の公式 (トーリック幾何の応用)

Pick の公式 (G. Pick, 1899)

P を格子多角形, P の内部にある格子点の数を $I(P)$, P の辺上にある格子点の数を $B(P)$ とすると, P の面積 $= I(P) + \frac{1}{2}B(P) - 1$



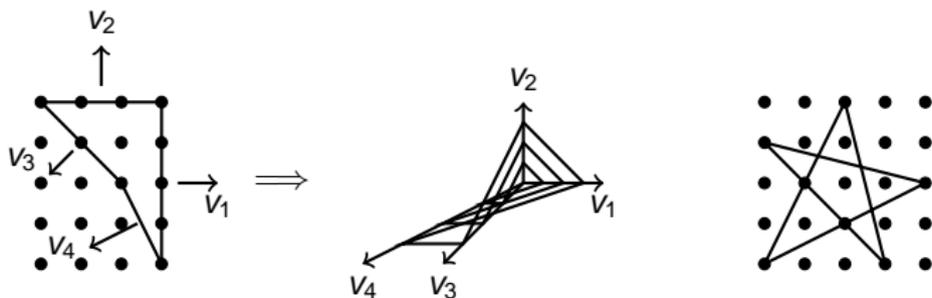
$P \iff$ 2次元トーリック多様体 X とその上の豊富直線束 L .

(右から左への対応はモーメント写像).

(X, L) に Hirzebruch-Riemann-Roch の定理 \rightsquigarrow Pick の公式

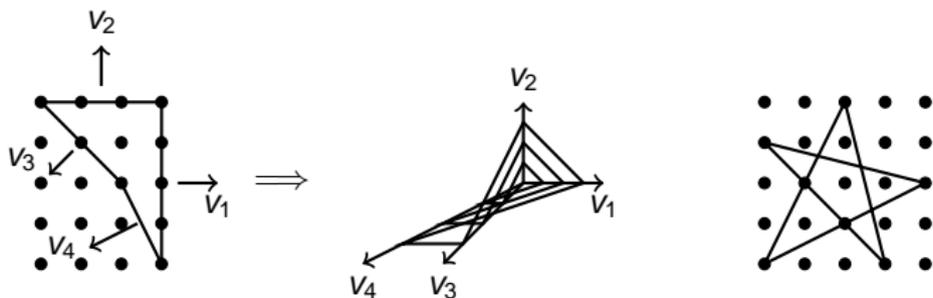
(Pick の公式) P の面積 = $I(P) + \frac{1}{2}B(P) - 1$

Pick の公式は P が凸でなくても成立するが、凸でないものはトリーク幾何では現れない。



(Pick の公式) P の面積 $= I(P) + \frac{1}{2}B(P) - 1$

Pick の公式は P が凸でなくても成立するが、凸でないものはトーリック幾何では現れない。



トーリックトポロジーの範疇では、**Pick** の公式が完全に証明でき、一般化も自然に見える。

位相的トーリック多様体

(トーリック多様体の1つのトポロジー版)

位相的トーリック多様体

定義 (位相的トーリック多様体)

実 $2n$ 次元コンパクト可微分多様体が，稠密な軌道をもつ「滑らかな」 $(\mathbb{C}^*)^n$ 作用をもつとき，位相的トーリック多様体という（正確には，「滑らかな」 $(\mathbb{C}^*)^n$ 表現を局所座標系にもつことを要求）。

（注．トーリック多様体は位相的トーリック多様体）。

位相的トーリック多様体

定義 (位相的トーリック多様体)

実 $2n$ 次元コンパクト可微分多様体が, 稠密な軌道をもつ「滑らかな」 $(\mathbb{C}^*)^n$ 作用をもつとき, 位相的トーリック多様体という (正確には, 「滑らかな」 $(\mathbb{C}^*)^n$ 表現を局所座標系にもつことを要求) .

(注. トーリック多様体は位相的トーリック多様体) .

「代数的」と「滑らか」の差.

$$\text{「代数的」} \quad \text{Hom}(\mathbb{C}^*, \mathbb{C}^*) \cong \mathbb{Z} \quad (1)$$

位相的トーリック多様体

定義 (位相的トーリック多様体)

実 $2n$ 次元コンパクト可微分多様体が, 稠密な軌道をもつ「滑らかな」 $(\mathbb{C}^*)^n$ 作用をもつとき, 位相的トーリック多様体という (正確には, 「滑らかな」 $(\mathbb{C}^*)^n$ 表現を局所座標系にもつことを要求) .

(注. トーリック多様体は位相的トーリック多様体) .

「代数的」と「滑らか」の差.

$$\text{「代数的」 } \operatorname{Hom}(\mathbb{C}^*, \mathbb{C}^*) \cong \mathbb{Z} \quad (1)$$

一方, $\mathbb{C}^* = \mathbb{R}_{>0} \times S^1$ (Lie 群として) より,

$$\text{「滑らか」 } \operatorname{Hom}_{\text{smth}}(\mathbb{C}^*, \mathbb{C}^*) \cong \mathbb{C} \times \mathbb{Z} \quad (re^{i\theta} \rightarrow r^b(e^{i\theta})^v) \quad (2)$$

代数的なものは $b = v$. (1) の \mathbb{Z} は (2) の $\mathbb{C} \times \mathbb{Z}$ に対角的に入る.

トーリック多様体から扇を定めた方法と同様にして，位相的トーリック多様体 X に対して「位相的扇」が定まる．

トリーク多様体から扇を定めた方法と同様にして、位相的トリーク多様体 X に対して「位相的扇」が定まる。

不変因子 X_1, \dots, X_m から2つのデータを抽出する。

- $K_X := \{I \subset [m] = \{1, \dots, m\} \mid \bigcap_{i \in I} X_i \neq \emptyset\}$ (抽象) 単体複体
- $v_i \in \text{Hom}_{\text{smth}}(\mathbb{C}^*, (\mathbb{C}^*)^n) = \mathbb{C}^n \times \mathbb{Z}^n$ は, $v_i(\mathbb{C}^*)$ は X_i を固定 $(+\alpha)$.

$I \in K_X$ のとき, $\{v_i \mid i \in I\}$ で錐を作る $\rightsquigarrow X$ の「位相的扇」 Δ_X

位相的扇は, $(\mathbb{C}^n \times \mathbb{Z}^n) \otimes \mathbb{R}$ 内の n 次元以下の錐の集まり。

トリーク多様体から扇を定めた方法と同様にして、位相的トリーク多様体 X に対して「位相的扇」が定まる。

不変因子 X_1, \dots, X_m から2つのデータを抽出する。

- $K_X := \{I \subset [m] = \{1, \dots, m\} \mid \bigcap_{i \in I} X_i \neq \emptyset\}$ (抽象) 単体複体
- $v_i \in \text{Hom}_{\text{smth}}(\mathbb{C}^*, (\mathbb{C}^*)^n) = \mathbb{C}^n \times \mathbb{Z}^n$ は, $v_i(\mathbb{C}^*)$ は X_i を固定 $(+\alpha)$.

$I \in K_X$ のとき, $\{v_i \mid i \in I\}$ で錐を作る $\rightsquigarrow X$ の「位相的扇」 Δ_X

位相的扇は, $(\mathbb{C}^n \times \mathbb{Z}^n) \otimes \mathbb{R}$ 内の n 次元以下の錐の集まり。

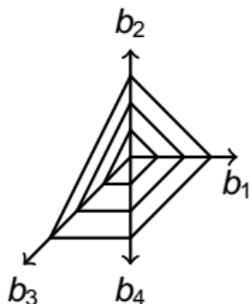
定理 (Ishida-Fukukawa-M, 2013)

$\{\text{実 } 2n \text{ 次元位相的トリーク多様体}\} \xleftrightarrow{1:1} \{n \text{ 次元位相的扇}\}$

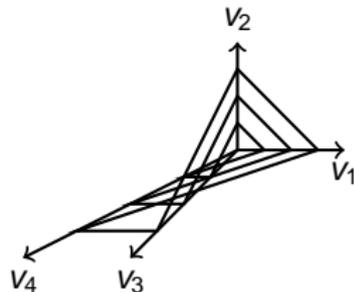
位相的扇 Δ_X は $\text{Hom}_{\text{smth}}(\mathbb{C}^*, (\mathbb{C}^*)^n) = \mathbb{C}^n \times \mathbb{Z}^n$ に定義.

位相的扇 Δ_X は $\text{Hom}_{\text{smth}}(\mathbb{C}^*, (\mathbb{C}^*)^n) = \mathbb{C}^n \times \mathbb{Z}^n$ に定義.

- Δ_1 : Δ_X を $\mathbb{R}^n (\subset \mathbb{C}^n)$ へ射影したもの (通常の扇)
- Δ_2 : Δ_X を \mathbb{Z}^n へ射影したもの (多重扇)



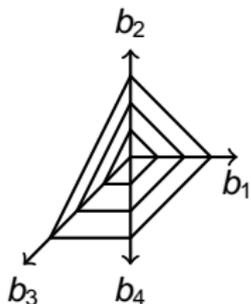
Δ_1



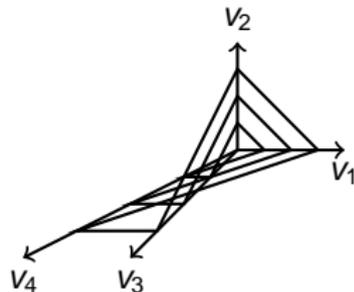
Δ_2

位相的扇 Δ_X は $\text{Hom}_{\text{smth}}(\mathbb{C}^*, (\mathbb{C}^*)^n) = \mathbb{C}^n \times \mathbb{Z}^n$ に定義.

- Δ_1 : Δ_X を $\mathbb{R}^n (\subset \mathbb{C}^n)$ へ射影したもの (通常の扇)
- Δ_2 : Δ_X を \mathbb{Z}^n へ射影したもの (多重扇)



Δ_1

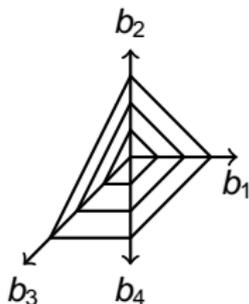


Δ_2

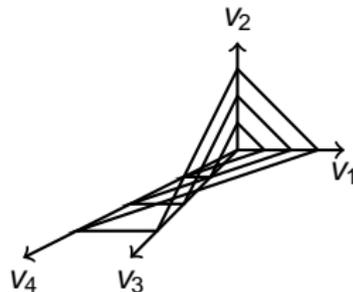
Δ_X は本質的に2つの扇 (Δ_1, Δ_2). X がトリーク多様体の場合, $\Delta_1 = \Delta_2$.

位相的扇 Δ_X は $\text{Hom}_{\text{smth}}(\mathbb{C}^*, (\mathbb{C}^*)^n) = \mathbb{C}^n \times \mathbb{Z}^n$ に定義.

- Δ_1 : Δ_X を $\mathbb{R}^n (\subset \mathbb{C}^n)$ へ射影したもの (通常の扇)
- Δ_2 : Δ_X を \mathbb{Z}^n へ射影したもの (多重扇)



Δ_1



Δ_2

Δ_X は本質的に2つの扇 (Δ_1, Δ_2). X がトーリック多様体の場合, $\Delta_1 = \Delta_2$.
 Δ_1 が (錐に交わりがない) 通常の完備扇 $\iff X$ がコンパクト, ハウスドルフ

実4次元のトーリック多様体の微分同相類は

$$\mathbb{C}P^1 \times \mathbb{C}P^1, \quad \mathbb{C}P^2 \# q\overline{\mathbb{C}P^2} \quad (q \geq 0)$$

位相的トーリック多様体の微分同相類は、上記に以下が加わる.

$$p\mathbb{C}P^2 \# q\overline{\mathbb{C}P^2} \quad (p \geq 2, q \geq 0).$$

実4次元のトリーク多様体の微分同相類は

$$\mathbb{C}P^1 \times \mathbb{C}P^1, \quad \mathbb{C}P^2 \# q\overline{\mathbb{C}P^2} \quad (q \geq 0)$$

位相的トリーク多様体の微分同相類は、上記に以下が加わる.

$$p\mathbb{C}P^2 \# q\overline{\mathbb{C}P^2} \quad (p \geq 2, q \geq 0).$$

Example ($\mathbb{C}P^2 \# \mathbb{C}P^2$ の局所座標系の変換関数)

4つの \mathbb{C}^2 の貼り合わせ

$$\begin{array}{ccc}
 (x_1, x_2) = (w_1^{-1}, w_1^{-1} \bar{w}_1 w_2) & \longleftarrow & (w_1, w_2) \\
 \downarrow & & \downarrow \\
 (x_1 \bar{x}_2, \bar{x}_2^{-1}) = (\bar{w}_1^{-1} \bar{w}_2, \bar{w}_1 w_1^{-1} \bar{w}_2^{-1}) & \longleftarrow & (w_1 w_2^{-1}, w_2^{-1}) \\
 \parallel & & \parallel \\
 (\bar{y}_1^{-1}, \bar{y}_1 y_1^{-1} y_2) & & (y_1, y_2)
 \end{array}$$

注意 (局所座標系の変換関数)

トーリック多様体は

「幾つかの \mathbb{C}^n をローラン単項式を成分とする関数で貼り合わせたもの」

注意 (局所座標系の変換関数)

トーリック多様体は

「幾つかの \mathbb{C}^n をローラン単項式を成分とする関数で貼り合わせたもの」

Example ($\mathbb{C}P^2 \# \overline{\mathbb{C}P^2}$ の局所座標系の変換関数)

4つの \mathbb{C}^2 の貼り合わせ

$$\begin{array}{ccc}
 (x_1, x_2) = (w_1^{-1}, w_1 w_2) & \longleftarrow & (w_1, w_2) \\
 \downarrow & & \downarrow \\
 (x_1, x_2^{-1}) = (w_1^{-1}, w_1^{-1} w_2^{-1}) & \longleftarrow & (w_1, w_2^{-1}) \\
 \parallel & & \parallel \\
 (y_1^{-1}, y_1^{-1} y_2) & & (y_1, y_2)
 \end{array}$$

コホモロジー剛性問題

コホモロジー環

X : トーリック多様体, $\dim_{\mathbb{C}} X = n$

$\Delta_X = (K_X, \{v_i\}_{i=1}^m)$: X の扇

ここで, K_X は (抽象) 単体複体, $v_i \in \text{Hom}(\mathbb{C}^*, (\mathbb{C}^*)^n) = \mathbb{Z}^n$
 μ_1, \dots, μ_m : 不変因子 X_1, \dots, X_m のポアンカレ双対, $H^2(X)$ の元.

コホモロジー環

X : トーリック多様体, $\dim_{\mathbb{C}} X = n$

$\Delta_X = (K_X, \{v_i\}_{i=1}^m)$: X の扇

ここで, K_X は (抽象) 単体複体, $v_i \in \text{Hom}(\mathbb{C}^*, (\mathbb{C}^*)^n) = \mathbb{Z}^n$
 μ_1, \dots, μ_m : 不変因子 X_1, \dots, X_m のポアンカレ双対, $H^2(X)$ の元.

関係式 1. $l \notin K_X$ (つまり $\bigcap_{i \in l} X_i = \emptyset$) ならば $\prod_{i \in l} \mu_i = 0$.

コホモロジー環

X : トーリック多様体, $\dim_{\mathbb{C}} X = n$

$\Delta_X = (K_X, \{v_i\}_{i=1}^m)$: X の扇

ここで, K_X は (抽象) 単体複体, $v_i \in \text{Hom}(\mathbb{C}^*, (\mathbb{C}^*)^n) = \mathbb{Z}^n$
 μ_1, \dots, μ_m : 不変因子 X_1, \dots, X_m のポアンカレ双対, $H^2(X)$ の元.

関係式 1. $l \notin K_X$ (つまり $\bigcap_{i \in l} X_i = \emptyset$) ならば $\prod_{i \in l} \mu_i = 0$.

関係式 2. $\sum_{i=1}^m \langle u, v_i \rangle \mu_i = 0 \quad (\forall u \in \mathbb{Z}^n)$.

コホモロジー環

X : トーリック多様体, $\dim_{\mathbb{C}} X = n$

$\Delta_X = (K_X, \{v_i\}_{i=1}^m)$: X の扇

ここで, K_X は (抽象) 単体複体, $v_i \in \text{Hom}(\mathbb{C}^*, (\mathbb{C}^*)^n) = \mathbb{Z}^n$

μ_1, \dots, μ_m : 不変因子 X_1, \dots, X_m のポアンカレ双対, $H^2(X)$ の元.

関係式 1. $l \notin K_X$ (つまり $\bigcap_{i \in l} X_i = \emptyset$) ならば $\prod_{i \in l} \mu_i = 0$.

関係式 2. $\sum_{i=1}^m \langle u, v_i \rangle \mu_i = 0$ ($\forall u \in \mathbb{Z}^n$).

定理 (Danilov-Jurkiewicz)

$H^*(X; \mathbb{Z}) = \mathbb{Z}[\mu_1, \dots, \mu_m] / (\mathcal{I} + \mathcal{J})$.

\mathcal{I} は関係式 1 で, \mathcal{J} は関係式 2 で生成されるイデアル

コホモロジー環

X : トーリック多様体, $\dim_{\mathbb{C}} X = n$

$\Delta_X = (K_X, \{v_i\}_{i=1}^m)$: X の扇

ここで, K_X は (抽象) 単体複体, $v_i \in \text{Hom}(\mathbb{C}^*, (\mathbb{C}^*)^n) = \mathbb{Z}^n$

μ_1, \dots, μ_m : 不変因子 X_1, \dots, X_m のポアンカレ双対, $H^2(X)$ の元.

関係式 1. $l \notin K_X$ (つまり $\bigcap_{i \in l} X_i = \emptyset$) ならば $\prod_{i \in l} \mu_i = 0$.

関係式 2. $\sum_{i=1}^m \langle u, v_i \rangle \mu_i = 0$ ($\forall u \in \mathbb{Z}^n$).

定理 (Danilov-Jurkiewicz)

$H^*(X; \mathbb{Z}) = \mathbb{Z}[\mu_1, \dots, \mu_m] / (\mathcal{I} + \mathcal{J})$.

\mathcal{I} は関係式 1 で, \mathcal{J} は関係式 2 で生成されるイデアル

注意: 上の定理は, 位相的トーリック多様体に対しても成立する.

コホモロジー剛性問題

X, Y : トーリック多様体

$$X \cong Y \text{ (代数多様体として)} \iff \Delta_X \cong \Delta_Y$$

コホモロジー剛性問題

X, Y : トーリック多様体

$$X \cong Y \text{ (代数多様体として)} \iff \Delta_X \cong \Delta_Y$$

一般に、トーリック多様体の可微分多様体としての分類は、代数多様体としての分類より弱い。

コホモロジー剛性問題

X, Y : トーリック多様体

$$X \cong Y \text{ (代数多様体として)} \iff \Delta_X \cong \Delta_Y$$

一般に、トーリック多様体の可微分多様体としての分類は、代数多様体としての分類より弱い。

Example (Hirzebruch 曲面 F_a ($a \in \mathbb{Z}$))

- ① F_a と F_b が代数多様体として同型 $\iff |a| = |b|$.
- ② F_a と F_b が可微分多様体として同型 $\iff a \equiv b \pmod{2}$.

さらに、 $a \equiv b \pmod{2} \iff H^*(F_a; \mathbb{Z}) \cong H^*(F_b; \mathbb{Z})$

コホモロジー剛性問題

X, Y : トーリック多様体

$$X \cong Y \text{ (代数多様体として)} \iff \Delta_X \cong \Delta_Y$$

一般に、トーリック多様体の可微分多様体としての分類は、代数多様体としての分類より弱い。

Example (Hirzebruch 曲面 F_a ($a \in \mathbb{Z}$))

- ① F_a と F_b が代数多様体として同型 $\iff |a| = |b|$.
- ② F_a と F_b が可微分多様体として同型 $\iff a \equiv b \pmod{2}$.

さらに、 $a \equiv b \pmod{2} \iff H^*(F_a; \mathbb{Z}) \cong H^*(F_b; \mathbb{Z})$

コホモロジー剛性問題

(位相的) トーリック多様体 X, Y に対して、

$$H^*(X; \mathbb{Z}) \cong H^*(Y; \mathbb{Z}) \implies X \cong Y \text{ (微分) 同相?}$$

単体的凸多面体，単体的セル球面の面数の特徴づけ (トーリック幾何，トーリックトポロジーの応用)

単体的凸多面体の面数

P : n 次元 単体的 凸多面体

$f_i = f_i(P)$: P の i 次元面の数, $(f_0, f_1, \dots, f_{n-1})$: P の **f -vector**

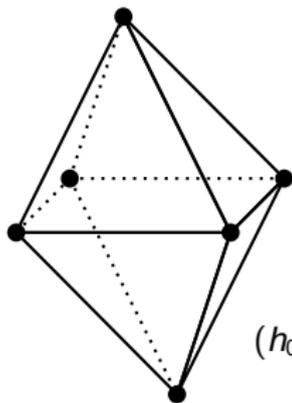
単体的凸多面体の面数

P : n 次元 単体的 凸多面体

$f_i = f_i(P)$: P の i 次元面の数, $(f_0, f_1, \dots, f_{n-1})$: P の **f -vector**

P の **h -vector** (h_0, h_1, \dots, h_n) を次で定める.

$$(t-1)^n + f_0(t-1)^{n-1} + \dots + f_{n-1} = h_0 t^n + h_1 t^{n-1} + \dots + h_n$$



$$f_0 = 6, f_1 = 12, f_2 = 8$$

$$(t-1)^3 + 6(t-1)^2 + 12(t-1) + 8 = t^3 + 3t^2 + 3t + 1$$

$$(h_0, h_1, h_2, h_3) = (1, 3, 3, 1) \quad (\mathbb{C}P^1)^3 \text{ とベッチ数が一致}$$

g-定理 (Billera-Lee, Stanley, 1980 年頃)

整数ベクトル (h_0, \dots, h_n) ($h_0 = 1$) が n 次元単体的凸多面体 P の h -vector となる必要十分条件は次の3つが成立すること。

- ① $h_i = h_{n-i}$ ($\forall i$) (Dehn-Sommerville relations)
- ② $1 = h_0 \leq h_1 \leq \dots \leq h_{\lfloor n/2 \rfloor}$
- ③ $h_{i+1} - h_i \leq (h_i - h_{i-1})^{(i)}$ ($1 \leq i \leq \lfloor n/2 \rfloor - 1$)

g-定理 (Billera-Lee, Stanley, 1980 年頃)

整数ベクトル (h_0, \dots, h_n) ($h_0 = 1$) が n 次元単体的凸多面体 P の h -vector となる必要十分条件は次の3つが成立すること.

- ① $h_i = h_{n-i}$ ($\forall i$) (Dehn-Sommerville relations)
- ② $1 = h_0 \leq h_1 \leq \dots \leq h_{\lfloor n/2 \rfloor}$
- ③ $h_{i+1} - h_i \leq (h_i - h_{i-1})^{\langle i \rangle}$ ($1 \leq i \leq \lfloor n/2 \rfloor - 1$)

証明 (必要条件, Stanley).

$P \implies$ 扇 \implies 射影的トーリック多様体 (軌道体) X .

鍵になる事実 $h_i(P) = b_{2i}(X)$.

- (1) \Leftarrow Poincaré 双対性 (トポロジー)
- (2) \Leftarrow 強 Lefschetz 定理 (代数幾何)
- (3) \Leftarrow Macaulay の定理 (可換代数)

単体的セル球面 (トーリックトポロジーに現れる)

CW 複体 K の各セルが単体で, K の実現が $(n-1)$ 次元球面のとき,
 $(n-1)$ 次元単体的セル球面 という.

$f_i = f_i(K)$: K の i 単体の数. f -vector \rightsquigarrow h -vector

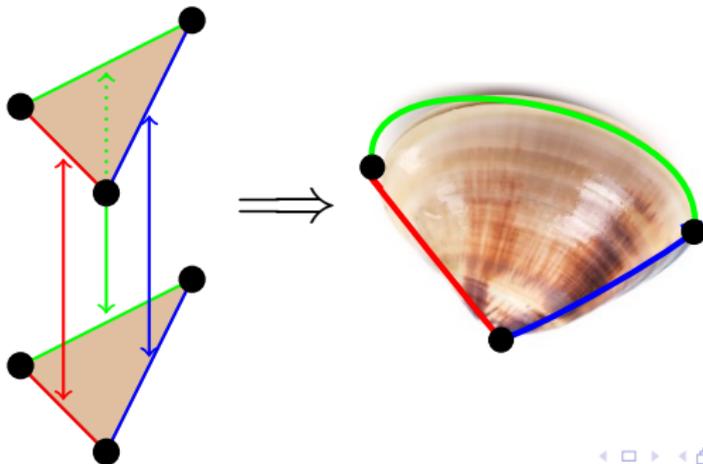
単体的セル球面 (トールックトポロジーに現れる)

CW 複体 K の各セルが単体で, K の実現が $(n-1)$ 次元球面のとき,
 $(n-1)$ 次元単体的セル球面 という.

$f_i = f_i(K) : K$ の i 単体の数. **f -vector** \rightsquigarrow **h -vector**

Example (2つの2単体を境界で貼り合せた単体的セル球面)

$(f_0, f_1, f_2) = (3, 3, 2) \rightsquigarrow (h_0, h_1, h_2, h_3) = (1, 0, 0, 1)$. S^6 のベッチ数と一致
 $[(t-1)^3 + f_0(t-1)^2 + f_1(t-1) + f_2 = h_0t^3 + h_1t^2 + h_2t + h_3]$



定理 (Stanley 1991, M 2005)

整数ベクトル (h_0, \dots, h_n) ($h_0 = 1$) が $(n-1)$ 次元単体的セル球面の h -vector となる必要十分条件は次の3つが成立すること。

- ① $h_i = h_{n-i}$ ($\forall i$) (Dehn-Sommerville relations)
- ② $h_i \geq 0$ ($1 \leq i \leq n-1$)
- ③ もしある i に対して $h_i = 0$ ならば, $\sum_{i=0}^n h_i$ は偶数.

定理 (Stanley 1991, M 2005)

整数ベクトル (h_0, \dots, h_n) ($h_0 = 1$) が $(n-1)$ 次元単体的セル球面の h -vector となる必要十分条件は次の3つが成立すること。

- ① $h_i = h_{n-i}$ ($\forall i$) (Dehn-Sommerville relations)
- ② $h_i \geq 0$ ($1 \leq i \leq n-1$)
- ③ もしある i に対して $h_i = 0$ ならば, $\sum_{i=0}^n h_i$ は偶数.

$(1, 0, 1, 0, 1)$ は **(3)** をみたさないが $(1, 0, 2, 0, 1)$ はみたす.

定理 (Stanley 1991, M 2005)

整数ベクトル (h_0, \dots, h_n) ($h_0 = 1$) が $(n-1)$ 次元単体的セル球面の h -vector となる必要十分条件は次の3つが成立すること。

- ① $h_i = h_{n-i}$ ($\forall i$) (Dehn-Sommerville relations)
- ② $h_i \geq 0$ ($1 \leq i \leq n-1$)
- ③ もしある i に対して $h_i = 0$ ならば, $\sum_{i=0}^n h_i$ は偶数.

$(1, 0, 1, 0, 1)$ は **(3)** をみたさないが $(1, 0, 2, 0, 1)$ はみたす.

必要条件の幾何学的説明.

定理 (Stanley 1991, M 2005)

整数ベクトル (h_0, \dots, h_n) ($h_0 = 1$) が $(n-1)$ 次元単体的セル球面の h -vector となる必要十分条件は次の3つが成立すること。

- ① $h_i = h_{n-i}$ ($\forall i$) (Dehn-Sommerville relations)
- ② $h_i \geq 0$ ($1 \leq i \leq n-1$)
- ③ もしある i に対して $h_i = 0$ ならば, $\sum_{i=0}^n h_i$ は偶数.

$(1, 0, 1, 0, 1)$ は **(3)** をみたさないが $(1, 0, 2, 0, 1)$ はみたす.

必要条件の幾何学的説明. $(n-1)$ 次元単体的セル球面 K に対し,

(a) $h_i(K) = b_{2i}(M)$, $H^{\text{odd}}(M) = 0$

(b) $w(M) = \prod_i (1 + \mu_i)$ ($\mu_i \in H^2(M; \mathbb{Z}/2)$)

をみたす $2n$ 次元 (トーラス) 多様体 M が存在するとすると,

定理 (Stanley 1991, M 2005)

整数ベクトル (h_0, \dots, h_n) ($h_0 = 1$) が $(n-1)$ 次元単体的セル球面の h -vector となる必要十分条件は次の3つが成立すること。

- ① $h_i = h_{n-i}$ ($\forall i$) (Dehn-Sommerville relations)
- ② $h_i \geq 0$ ($1 \leq i \leq n-1$)
- ③ もしある i に対して $h_i = 0$ ならば, $\sum_{i=0}^n h_i$ は偶数.

$(1, 0, 1, 0, 1)$ は **(3)** をみたさないが $(1, 0, 2, 0, 1)$ はみたす.

必要条件の幾何学的説明. $(n-1)$ 次元単体的セル球面 K に対し,

(a) $h_i(K) = b_{2i}(M)$, $H^{\text{odd}}(M) = 0$

(b) $w(M) = \prod_i (1 + \mu_i)$ ($\mu_i \in H^2(M; \mathbb{Z}/2)$)

をみたす $2n$ 次元 (トーラス) 多様体 M が存在するとすると, **(a)** \implies **(1), (2)**.

定理 (Stanley 1991, M 2005)

整数ベクトル (h_0, \dots, h_n) ($h_0 = 1$) が $(n-1)$ 次元単体的セル球面の h -vector となる必要十分条件は次の3つが成立すること。

- 1 $h_i = h_{n-i}$ ($\forall i$) (Dehn-Sommerville relations)
- 2 $h_i \geq 0$ ($1 \leq i \leq n-1$)
- 3 もしある i に対して $h_i = 0$ ならば, $\sum_{i=0}^n h_i$ は偶数.

$(1, 0, 1, 0, 1)$ は **(3)** をみたさないが $(1, 0, 2, 0, 1)$ はみたす。

必要条件の幾何学的説明. $(n-1)$ 次元単体的セル球面 K に対し,

(a) $h_i(K) = b_{2i}(M)$, $H^{\text{odd}}(M) = 0$

(b) $w(M) = \prod_i (1 + \mu_i)$ ($\mu_i \in H^2(M; \mathbb{Z}/2)$)

をみたす $2n$ 次元 (トラス) 多様体 M が存在するとすると, **(a)** \implies **(1), (2)**.
(3) は次より従う。

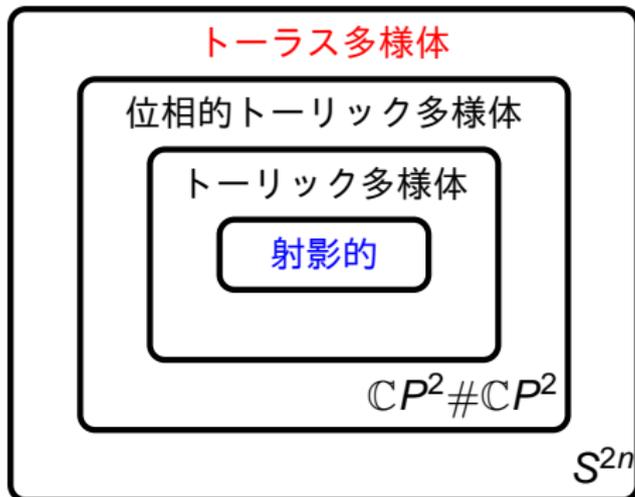
$$\sum_{i=1}^n h_i(K) = \sum_{i=1}^n b_{2i}(M) = \chi(M) \equiv w_{2n}(M) \pmod{2}.$$

{ 単体的凸多面体 (の境界) } \subset { 単体的球面 } \subset { 単体的セル球面 }

- 単体的球面 (= 球面の三角形分割) の単体の数の特徴づけは、未解決。
特に、「単体的凸多面体と同じ必要条件が成立するか」は、懸案の問題。

{ 単体的凸多面体 (の境界) } \subset { 単体的球面 } \subset { 単体的セル球面 }

- 単体的球面 (= 球面の三角形分割) の単体の数の特徴づけは、未解決。
特に、「単体的凸多面体と同じ必要条件が成立するか」は、懸案の問題。



トーリックトポロジーにおけるその他の話題

座標部分空間配置のトポロジー

$K: \{1, 2, \dots, m\}$ の部分集合からなる (抽象) 単体複体,

$$U(K) := \mathbb{C}^m \setminus \bigcup_{I \notin K} L_I$$

ここで, $L_I = \{(z_1, \dots, z_m) \in \mathbb{C}^m \mid z_i = 0 \ \forall i \in I\}$, 座標部分空間.

座標部分空間配置のトポロジー

$K: \{1, 2, \dots, m\}$ の部分集合からなる (抽象) 単体複体,

$$U(K) := \mathbb{C}^m \setminus \bigcup_{I \notin K} L_I$$

ここで, $L_I = \{(z_1, \dots, z_m) \in \mathbb{C}^m \mid z_i = 0 \ \forall i \in I\}$, 座標部分空間.
(注意. $U(K)$ は (位相的) トリーク多様体の構成に現れる.)

座標部分空間配置のトポロジー

$K: \{1, 2, \dots, m\}$ の部分集合からなる (抽象) 単体複体,

$$U(K) := \mathbb{C}^m \setminus \bigcup_{I \notin K} L_I$$

ここで, $L_I = \{(z_1, \dots, z_m) \in \mathbb{C}^m \mid z_i = 0 \ \forall i \in I\}$, 座標部分空間.

(注意. $U(K)$ は (位相的) トーリック多様体の構成に現れる.)

K が簡単な場合でも $U(K)$ のトポロジーは一般に複雑.

座標部分空間配置のトポロジー

$K: \{1, 2, \dots, m\}$ の部分集合からなる (抽象) 単体複体,

$$U(K) := \mathbb{C}^m \setminus \bigcup_{I \notin K} L_I$$

ここで, $L_I = \{(z_1, \dots, z_m) \in \mathbb{C}^m \mid z_i = 0 \ \forall i \in I\}$, 座標部分空間.

(注意. $U(K)$ は (位相的) トーリック多様体の構成に現れる.)

K が簡単な場合でも $U(K)$ のトポロジーは一般に複雑.

① $K = \{\{1\}, \{2\}\}$ の場合 ($m = 2$)

$$U(K) = \mathbb{C}^2 \setminus \{z_1 = z_2 = 0\} \simeq S^3 \text{ は容易.}$$

② $K = \{\{1\}, \{2\}, \{3\}\}$ の場合 ($m = 3$)

$$\begin{aligned} U(K) &= \mathbb{C}^3 \setminus \left(\{z_1 = z_2 = 0\} \cup \{z_1 = z_3 = 0\} \cup \{z_2 = z_3 = 0\} \right) \\ &\simeq S^3 \vee S^3 \vee S^3 \vee S^4 \vee S^4 \text{ は容易ではない (Grbić-Theriault).} \end{aligned}$$

座標部分空間配置のトポロジー

$K: \{1, 2, \dots, m\}$ の部分集合からなる (抽象) 単体複体,

$$U(K) := \mathbb{C}^m \setminus \bigcup_{I \notin K} L_I$$

ここで, $L_I = \{(z_1, \dots, z_m) \in \mathbb{C}^m \mid z_i = 0 \ \forall i \in I\}$, 座標部分空間.

(注意. $U(K)$ は (位相的) トリーク多様体の構成に現れる.)

K が簡単な場合でも $U(K)$ のトポロジーは一般に複雑.

① $K = \{\{1\}, \{2\}\}$ の場合 ($m = 2$)

$$U(K) = \mathbb{C}^2 \setminus \{z_1 = z_2 = 0\} \simeq S^3 \text{ は容易.}$$

② $K = \{\{1\}, \{2\}, \{3\}\}$ の場合 ($m = 3$)

$$\begin{aligned} U(K) &= \mathbb{C}^3 \setminus \left(\{z_1 = z_2 = 0\} \cup \{z_1 = z_3 = 0\} \cup \{z_2 = z_3 = 0\} \right) \\ &\simeq S^3 \vee S^3 \vee S^3 \vee S^4 \vee S^4 \text{ は容易ではない (Grbić-Theriault).} \end{aligned}$$

(Buchstaber-Panov, Bahri-Bendersky-Cohen-Gitler, 入江-岸本,

Moment-angle 多様体

典型例

$$\mathbb{C}^{n+1} \supset S^{2n+1} \rightarrow S^{2n+1}/S^1 = \mathbb{C}P^n \rightarrow \mathbb{C}P^n/T^n = n \text{ 単体}$$

S^{2n+1} は n 単体に付随する **momen-angle** 多様体.

Moment-angle 多様体

典型例

$$\mathbb{C}^{n+1} \supset \mathbf{S}^{2n+1} \rightarrow \mathbf{S}^{2n+1}/\mathbf{S}^1 = \mathbb{C}P^n \rightarrow \mathbb{C}P^n/T^n = n \text{ 単体}$$

\mathbf{S}^{2n+1} は n 単体に付随する **momen-angle** 多様体.

一般に, n 次元単純凸多面体 $Q \rightsquigarrow \mathcal{Z}_Q$ (**Moment-angle** 多様体).

Moment-angle 多様体

典型例

$$\mathbb{C}^{n+1} \supset \mathbf{S}^{2n+1} \rightarrow \mathbf{S}^{2n+1}/\mathbf{S}^1 = \mathbb{C}P^n \rightarrow \mathbb{C}P^n/T^n = n \text{ 単体}$$

\mathbf{S}^{2n+1} は n 単体に付随する **momen-angle** 多様体.

一般に, n 次元単純凸多面体 $Q \rightsquigarrow \mathcal{Z}_Q$ (**Moment-angle** 多様体).

\mathcal{Z}_Q は次の性質をもつ (m は Q の余次元 1 の面数).

Moment-angle 多様体

典型例

$$\mathbb{C}^{n+1} \supset \mathbf{S}^{2n+1} \rightarrow \mathbf{S}^{2n+1}/\mathbf{S}^1 = \mathbb{C}P^n \rightarrow \mathbb{C}P^n/T^n = n \text{ 単体}$$

\mathbf{S}^{2n+1} は n 単体に付随する **momen-angle** 多様体.

一般に, n 次元単純凸多面体 $Q \rightsquigarrow \mathcal{Z}_Q$ (**Moment-angle** 多様体).

\mathcal{Z}_Q は次の性質をもつ (m は Q の余次元 1 の面数).

- 1 $m + n$ 次元コンパクト可微分多様体

Moment-angle 多様体

典型例

$$\mathbb{C}^{n+1} \supset \mathbf{S}^{2n+1} \rightarrow \mathbf{S}^{2n+1}/\mathbf{S}^1 = \mathbb{C}P^n \rightarrow \mathbb{C}P^n/T^n = n \text{ 単体}$$

\mathbf{S}^{2n+1} は n 単体に付随する **moment-angle** 多様体.

一般に, n 次元単純凸多面体 $Q \rightsquigarrow \mathcal{Z}_Q$ (**Moment-angle** 多様体).

\mathcal{Z}_Q は次の性質をもつ (m は Q の余次元 1 の面数).

- ① $m + n$ 次元コンパクト可微分多様体
- ② \mathbb{C}^m 上の実 2 次式で定義される.

Moment-angle 多様体

典型例

$$\mathbb{C}^{n+1} \supset \mathbf{S}^{2n+1} \rightarrow \mathbf{S}^{2n+1}/\mathbf{S}^1 = \mathbb{C}P^n \rightarrow \mathbb{C}P^n/T^n = n \text{ 単体}$$

\mathbf{S}^{2n+1} は n 単体に付随する **momen-angle** 多様体.

一般に, n 次元単純凸多面体 $Q \rightsquigarrow \mathcal{Z}_Q$ (**Moment-angle** 多様体).

\mathcal{Z}_Q は次の性質をもつ (m は Q の余次元 1 の面数).

- ① $m + n$ 次元コンパクト可微分多様体
- ② \mathbb{C}^m 上の実 2 次式で定義される.
- ③ \mathcal{Z}_Q または $\mathcal{Z}_Q \times \mathbf{S}^1$ は, ケーラーでない複素構造をもつ.

(López de Medrano, Verjovsky, Bosio, Meersseman, ...)

実トーリック多様体

トーリック多様体の実点集合を実トーリック多様体という。
典型例は、 $\mathbb{C}P^n$ 内の $\mathbb{R}P^n$ 。

実トーリック多様体

トーリック多様体の実点集合を実トーリック多様体という。
典型例は、 $\mathbb{C}P^n$ 内の $\mathbb{R}P^n$ 。

- 実トーリック多様体は単連結ではない。

実トリーク多様体

トリーク多様体の実点集合を実トリーク多様体という。
典型例は、 $\mathbb{C}P^n$ 内の $\mathbb{R}P^n$ 。

- 実トリーク多様体は単連結ではない。

Example (実 Bott 多様体 M_n)

$\mathbb{R}P^1$ 束の系列 (実 Bott タワー)

$$M_n \xrightarrow{\mathbb{R}P^1} M_{n-1} \xrightarrow{\mathbb{R}P^1} \cdots \xrightarrow{\mathbb{R}P^1} M_1 \xrightarrow{\mathbb{R}P^1} M_0 = \{ \text{1 点} \}$$

$M_k = P(L_k \oplus \mathbb{R})$ 射影化, $L_k \rightarrow M_{k-1}$ は (実) 直線束。

実トーリック多様体

トーリック多様体の実点集合を実トーリック多様体という。
典型例は、 $\mathbb{C}P^n$ 内の $\mathbb{R}P^n$ 。

- 実トーリック多様体は単連結ではない。

Example (実 Bott 多様体 M_n)

$\mathbb{R}P^1$ 束の系列 (実 Bott タワー)

$$M_n \xrightarrow{\mathbb{R}P^1} M_{n-1} \xrightarrow{\mathbb{R}P^1} \cdots \xrightarrow{\mathbb{R}P^1} M_1 \xrightarrow{\mathbb{R}P^1} M_0 = \{ \text{1 点} \}$$

$M_k = P(L_k \oplus \mathbb{R})$ 射影化, $L_k \rightarrow M_{k-1}$ は (実) 直線束。

- $M_1 = \mathbb{R}P^1 = S^1$, M_2 はトーラスか Klein の壺。

実トーリック多様体

トーリック多様体の実点集合を実トーリック多様体という。
典型例は、 $\mathbb{C}P^n$ 内の $\mathbb{R}P^n$ 。

- 実トーリック多様体は単連結ではない。

Example (実 Bott 多様体 M_n)

$\mathbb{R}P^1$ 束の系列 (実 Bott タワー)

$$M_n \xrightarrow{\mathbb{R}P^1} M_{n-1} \xrightarrow{\mathbb{R}P^1} \cdots \xrightarrow{\mathbb{R}P^1} M_1 \xrightarrow{\mathbb{R}P^1} M_0 = \{ \text{1 点} \}$$

$M_k = P(L_k \oplus \mathbb{R})$ 射影化, $L_k \rightarrow M_{k-1}$ は (実) 直線束。

- $M_1 = \mathbb{R}P^1 = S^1$, M_2 はトーラスか Klein の壺。
- M_n は平坦リーマン多様体。

実トーリック多様体

トーリック多様体の実点集合を実トーリック多様体という。
典型例は、 $\mathbb{C}P^n$ 内の $\mathbb{R}P^n$ 。

- 実トーリック多様体は単連結ではない。

Example (実 Bott 多様体 M_n)

$\mathbb{R}P^1$ 束の系列 (実 Bott タワー)

$$M_n \xrightarrow{\mathbb{R}P^1} M_{n-1} \xrightarrow{\mathbb{R}P^1} \cdots \xrightarrow{\mathbb{R}P^1} M_1 \xrightarrow{\mathbb{R}P^1} M_0 = \{ \text{1点} \}$$

$M_k = P(L_k \oplus \mathbb{R})$ 射影化, $L_k \rightarrow M_{k-1}$ は (実) 直線束。

- $M_1 = \mathbb{R}P^1 = S^1$, M_2 はトーラスか Klein の壺。
- M_n は平坦リーマン多様体。
- M_n 達は $\mathbb{Z}/2$ 係数コホモロジー環で区別される (Kamishima-M)。

実トーリック多様体

トーリック多様体の実点集合を実トーリック多様体という。
典型例は、 $\mathbb{C}P^n$ 内の $\mathbb{R}P^n$ 。

- 実トーリック多様体は単連結ではない。

Example (実 Bott 多様体 M_n)

$\mathbb{R}P^1$ 束の系列 (実 Bott タワー)

$$M_n \xrightarrow{\mathbb{R}P^1} M_{n-1} \xrightarrow{\mathbb{R}P^1} \cdots \xrightarrow{\mathbb{R}P^1} M_1 \xrightarrow{\mathbb{R}P^1} M_0 = \{ \text{1点} \}$$

$M_k = P(L_k \oplus \mathbb{R})$ 射影化, $L_k \rightarrow M_{k-1}$ は (実) 直線束。

- $M_1 = \mathbb{R}P^1 = S^1$, M_2 はトーラスか Klein の壺。
- M_n は平坦リーマン多様体。
- M_n 達は $\mathbb{Z}/2$ 係数コホモロジー環で区別される (Kamishima-M)。

実トーリック多様体は **aspherical** 多様体の具体例を沢山提供。

結び

「よい」空間 X がトーラス群 T 作用をもつとき,

制限写像: $H_T^*(X) \rightarrow H_T^*(X^T)$ は単射

が強力な事実. 像は, **Goresky-Kottwitz-MacPherson** の結果 (**GKM** 理論) より計算可能. (トーリック多様体に限らず, グラスマン多様体, 旗多様体, **Schubert variety**, **Hessenberg variety** などにも適用できる).

結び

「よい」空間 X がトーラス群 T 作用をもつとき,

制限写像: $H_T^*(X) \rightarrow H_T^*(X^T)$ は単射

が強力な事実. 像は, **Goresky-Kottwitz-MacPherson** の結果 (**GKM** 理論) より計算可能. (トーリック多様体に限らず, グラスマン多様体, 旗多様体, **Schubert variety**, **Hessenberg variety** などにも適用できる).

トーリックトポロジーとは?

結び

「よい」空間 X がトーラス群 T 作用をもつとき,

$$\text{制限写像: } H_T^*(X) \rightarrow H_T^*(X^T) \text{ は単射}$$

が強力な事実. 像は, **Goresky-Kottwitz-MacPherson** の結果 (**GKM** 理論) より計算可能. (トーリック多様体に限らず, グラスマン多様体, 旗多様体, **Schubert variety**, **Hessenberg variety** などにも適用できる).

トーリックトポロジーとは?

(1) トーラス群が作用する (多様体に限らない) よい空間を通して, 幾何, 代数, 組合せ論などの異なる数学分野を繋ぐ架け橋

結び

「よい」空間 X がトーラス群 T 作用をもつとき,

$$\text{制限写像: } H_T^*(X) \rightarrow H_T^*(X^T) \text{ は単射}$$

が強力な事実. 像は, **Goresky-Kottwitz-MacPherson** の結果 (**GKM** 理論) より計算可能. (トーリック多様体に限らず, グラスマン多様体, 旗多様体, **Schubert variety**, **Hessenberg variety** などにも適用できる).

トーリックトポロジーとは?

- (1) トーラス群が作用する (多様体に限らない) よい空間を通して, 幾何, 代数, 組合せ論などの異なる数学分野を繋ぐ架け橋
- (2) 面白い具体例を豊富に提供する場